

デビー・イトゥノ・チャド共和国大統領の訪日に際する 日本国とチャド共和国との間の共同声明

2016年5月28日、名古屋

1 チャド共和国のイドリス・デビー・イトゥノ大統領は、2016年5月26日から28日まで、G7伊勢志摩サミットにおけるアウトリーチ会合への出席のため、日本国政府の招待により日本を訪問し、5月28日に名古屋において安倍晋三日本国内閣総理大臣と二国間会談を行った。

2 二国間会談において、安倍総理大臣は、2013年6月の第5回アフリカ開発会議（TICADV）以来2度目となるデビー・イトゥノ大統領の訪日を温かく歓迎するとともに、本年アフリカ連合（AU）の議長を務めるデビー・イトゥノ大統領の活躍に敬意を表した。これに対し、デビー・イトゥノ大統領は、本年のAU議長として、アフリカの平和と安定、女性の権利の保護・促進等の取組を進めていく考えを明らかにした。

3 両首脳は、本年8月に開催が予定される第6回アフリカ開発会議（TICADVI）も見据え、両国関係及び日・アフリカ関係の強化に向けて以下のような分野で連携及び協力を推進していくことで一致した。

4 両首脳は、民主主義や法の支配等の普遍的価値の重要性を確認した。安倍総理大臣からは、日本は国際協調主義に基づく積極的平和主義及びその具体的実践である平和安全法制の下、地域や国際社会の平和と安定に一層積極的な役割を果たしていく考えを説明した。これに対し、デビー・イトゥノ大統領は、日本の積極的平和主義に基づく取組を支持するとともに、世界で広く知られている日本の平和国家としての活動及び決意を賞賛した。同時に、地域及び世界の平和と安定への日本の貢献に対する謝意を表明した。

5 安倍総理大臣は、チャドが、2014年から2年間国連安全保障理事会非常任理事国を務めたことを含め、地域の安定に貢献してきたことに敬意を表した。これに対し、デビー・イトゥノ大統領は、国連マリ多面的統合安定化ミッション（MINUSMA）への部隊派遣、中央アフリカ情勢の安定化への貢献、近隣国からの難民受入れ、フランスの対テロ作戦（バルカンヌ作戦）との連携等、チャドが推進する地域の平和と安定に向けた取組について説明した。

6 安倍総理大臣は、社会の不安定化につながり得る要因に包括的に取り組むことの重要性を強調した。かかる観点から、安倍総理大臣は、チャドに対して、食料安全保障や過激主義対策等を目的とした国際機関を通じた約845万ドル

の緊急・人道支援や周辺国を含む国境管理強化等のテロ対処能力向上支援を着実に推進していくこと、経済社会開発のために約3.5億円（約320万ドル）の支援を行う考えであること、アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）や技術協力等の枠組でチャドからの研修員を受け入れることを表明した。これに対し、デビー・イトゥノ大統領は、テロや暴力的過激主義の広がりや貧困問題への対処の必要性を改めて提起するものであるとして、日本の方針への賛意及び支援への謝意を表明した。また、同大統領は、日本に対し、テロに直面しているG5サヘルやチャド湖流域委員会（CBLT）のメンバー国への支援を呼びかけた。

7 両首脳は、次回のTICADが本年8月に初めてアフリカで開催されることを歓迎し、TICADVIの成功のために両国が協力を強化することで一致した。安倍総理大臣は、TICADVIにおいて、人間の安全保障の理念の下、エボラ出血熱の流行や、暴力的過激主義の拡大、国際資源価格の下落に伴う経済基盤の脆弱化といった、2013年のTICADV以降アフリカにおいて顕在化している問題を取り上げる考えを明らかにした。安倍総理大臣は、また、質の高いインフラ投資（運輸、水、エネルギー、情報技術等）や人材育成という日本の特色を生かした具体的貢献を民間セクターの関与を得て行うことを通じ、アフリカの開発アジェンダであるアジェンダ2063を後押ししていく考えを表明し、TICADVIにおけるデビー・イトゥノ大統領の貢献への期待を表した。デビー・イトゥノ大統領は、日本の貢献を高く評価し、安倍総理大臣の招請に応じTICADVIに出席する意向を表明した。

8 両首脳は、国連安全保障理事会が21世紀の国際社会の現実を十分に反映していないとの考えを共有するとともに、安保理の実効性、透明性及び代表性を向上させる安保理改革はとうに実現されて然るべきであるとして、改革の加速化に向けて協力を強化していくことで一致した。また、両首脳は、安保理改革に関する政府間交渉での最近の進展を踏まえ、意思疎通と協議を進めることを通じてプロセスの前進を図る重要性を強調した。特に、両首脳は、G4（ブラジル、ドイツ、インド、日本）とAUの間でグループとしての対話を実施することが重要であるとの認識を共有した。両首脳は、全国連加盟国に対し、安保理改革の実現に向けて協力していくよう呼びかけた。

9 両首脳は、国際場裡における諸課題についての協力、特に核不拡散や原子力の平和的利用に取り組む国際原子力機関（IAEA）における協力や、気候変動、持続可能な開発のための2030アジェンダの実施といった分野における取組を強化していくことで一致した。両首脳は、先進諸国に対し、気候変動の影響の最初の犠牲者となっている開発途上国、特にアフリカ諸国を力強く支援することを呼びかけた。

10 最後に、デビー・イトゥノ大統領は、G7伊勢志摩サミットのアウトリ
ーチ会合への招待に改めて謝意を表明するとともに、2020年の東京オリン
ピック・パラリンピックの成功を祈念する旨述べた。